

【プロジェクト名】「教職実践演習」の実施と教員養成カリキュラムの見直し**1 プロジェクトの目的・概要**

「教職実践演習」は教職課程修了時に、形成された教師として必要な基礎的資質の形成について評価・確認するための授業科目である。教職課程履修の全学生を対象として、平成25年度後学期から必修科目として開講している。その開講によって、教職課程履修学生の到達度としての、教師としての基礎的資質形成について明らかにし、その結果をフィードバックすることによって、大学における教員養成のカリキュラム全体を見直すようにしたい。そうすることで、全学的に教員養成の水準を高め、地域の学校教育の質的向上にも貢献するようにしたい。

また、「教職実践演習」には佐賀県教育委員会から指導者の派遣を得るとともに、佐賀市内中学校においても実務演習を実施している。これらの点で、地域のなかで地域とともに教員を養成する具体的な取り組みとなっているので、「教師の養成・採用・研修の一体化」に向けた1つのステップとなるようにしたい。

2 29年度の実施実績

昨年度に続き、担当者の入れ替えを行なった。それに伴い、2回にわたって担当者向けの事前説明会を行ない、実施内容・方法の周知徹底と、円滑かつ実質をともなった演習実施への協力を依頼した結果、大きなアクシデント等もなく実施された。例年同様、受講学生へのアンケートでは、佐賀県教育委員会より派遣頂いた講師の先生方から多くの情報や示唆を頂いた旨の回答が寄せられた。

実務演習の実施に関して、運営面と内容面の両方で課題の指摘が複数あり、次年度に向けた課題となっている。

3 30年度の実施計画

学校教育課程幼小連携教育コース（特に幼小発達教育専攻学生）の平成31年度受講に向けて、今年度はテキストの改訂が必要となっている。教職課程運営委員会の教職実践演習部会等を中心に担当者グループを編成し、修正を必要とする点などについて情報収集と協議を進め、改訂を行なう。合わせて、実務演習の実施内容についての検討も同グループで行う。

教員数の減少に伴い、特に教科内容担当教員の動員をさらに増加させる必要が生じている。後学期の開講を前に、余裕をもって担当者選出作業を開始し、スムーズに開始できるよう努める。

昨年度に行った学生へのアンケート調査を継続実施して、教職に関わる課題意識の所在を明らかにしていく。それを踏まえて、教職実践演習が学生の総合的な教師力向上に機能するような教職課程の最終ステップとなっていくよう、実施内容の検討を行なう。

さらに、教職に要求される倫理観・道徳観、社会的責任について、県教委から派遣頂いた指導者の先生方にもご協力を頂きながら、教職実践演習の中で厳格に指導を行うよう進めていく。